

## 生命を考える会(3年) 赤ちゃんふれあい体験



10月5日(木)、3年生を対象に「赤ちゃんふれあい体験」を行いました。多くの赤ちゃんとその保護者の方に参加していただきました。主催する保健センターの保健師さんだけでなく、地域の主任児童委員、民生児童委員の方もお手伝いに来てくださいました。



3年生は、少人数のグループに分かれて体験をしました。はじめのうちは、緊張した表情で、赤ちゃんを見たり、抱っこさせてもらったりしていました。家庭科の授業では、赤ちゃんのことを学んだり、赤ちゃん人形を抱っこしたりしましたが、本物の赤ちゃんの動きや泣き声、温かさに驚いた様子でした。そのうち、赤ちゃんににっこり微笑んだり、やさしい声で話しかけたりする姿が見られるようになりました。お母さんたちからもいろいろな話が聞けたようです。

協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



### お母さんにインタビューして分かったこと

- どんなに大変でも生きてるだけで幸せだということ。
- 赤ちゃんを寝かしつけてる時間は、背中をポンポンとたたいているとそのうち寝てしまうけど、ひどいときは3時間かかる。
- 5か月の子は、何でも口にしてしまうため、危険なものを食べてしまわないよう、常に気をつけて見ていかなければならない。
- 赤ちゃんが生まれてからは生活習慣が変わり、子ども優先になった。(髪型、アクセサリー、服のえりなど首元を気にしていた)



## 振り返りから(一部抜粋)

・生後3か月の赤ちゃんは、首がすわっていなかったで、頭のほうがかなり重く感じたけど、6か月くらいになると、ハイハイができそうな感じに成長していて、たったの3か月でものすごく成長しながら生きているんだなと思いました。

・自分の子どもを見ているお母さんの目がとてもやさしい感じで、ものすごく愛情をもっていると感じた。大変だとは言っていたけど、子どもの成長が見られるのがとてもうれしいのかなと思った。「赤ちゃんがはいずりを始めて、いろいろなところに移動できるようになって、赤ちゃんがうれしそう」と言っていた。赤ちゃんのことをよく見ていて感情までわかるお母さんがとてもすごいと思った。

・自分が大人になって子どもを支える側になったら、まず、自分の命より大切なものがあるっていうことを体験したいと思いました。子どもを第一に考えているお母さんたちを見て、すごく大変そうだったけど、その中には、とても幸せだと思えることが大変なこと以上にあるんだと思いました。

- ・2か月の赤ちゃん：まだはいはいできなくて、首もすわっていなかった。でも、目をぱっちり開けたり、泣いたりして自分のできることとお母さんに伝えているんじゃないかと感じた。
- ・1歳の赤ちゃん：2か月の赤ちゃんとは違い、もう立ったり物をつかんだりしていた。紙をつかんでばたばたしたり、お菓子を探したり、とても好奇心旺盛なんだなと思った。

・最近のニュースで、子どもの虐待や熱中症などで亡くなってしまった子の話を聞きます。私は、周りの人に守ってもらいながらここまで育ちました。なので、今の守るべき子どもたちを今度は私が守っていきたいと思いました。だから、小学生の登下校を見守ったり、近所の子たちとかかわる機会をつくったり、中3でもできることを積極的にしていきたいです。子どもが傷つかないように、子どもの味方である大人になりたいです。

・辛抱強い人になりたいです。お母さん方の話を聞くと、ご飯を作るときも、トイレに行くときも、赤ちゃんの行動を気にしたいといけなだとか、寝る時間も少ないだとか、とにかく自分よりも赤ちゃんを優先で動かないといけなようでした。もし今の私なら、途中で全部投げ出してしまいたいそうだなと感じたので、今から少しずつ我慢ができる人間になって、赤ちゃんを育てるときに、精神がまいらないようにしたいです。

・小さい子が安心して成長、生活できるように気を配れる大人になりたい。子どもが何人もいても、一人一人の子が初めての子育てだとして、愛を忘れず成長させていきたい。子どもの成長をいつまでも喜べる大人になりたい。身近にいる小さな子どもにたくさん話しかけたり、遊んだりして子どもの思っていることに触れていく。

